

鵜川むかわ町水害タイムライン 第3回検討会

平成30年8月20日(月)にむかわ町四季の館において、「鵜川むかわ町水害タイムライン第3回検討会」を開催しました。タイムラインは、鵜川で風水害が発生する可能性がある際に、早い段階から関係機関が連携して地域住民及び防災対応者の安全確保を図るための事前防災行動計画です。鵜川下流域での氾濫発生を想定し、平成30年度に5回の検討会を行って「鵜川むかわ町水害タイムライン試行版」を策定、運用開始を予定しています。



【実施日時】 平成30年8月20日(月) 13:30～17:00

【実施場所】 むかわ町四季の館 たんぽぽホール

【参加者】 むかわ町・防災関係機関 56名
(座長・アドバイザー・事務局等含む)

1. 開会

開会に際し、むかわ町の竹中町長より挨拶がありました。竹中町長は、「平成30年7月の西日本豪雨では、実際に避難したのは対象者の1割に満たないと聞いている。行政の発信、避難のあり方や促し方が問われてきている中での今回の検討会は、むかわ町にとって、いざという時の判断や選択に誤りがないよう、地域防災の充実強化を図る重要なものになると思っている。今回お集まりいただいた関係機関の皆様には、引き続きご指導とご協力を賜りたい。」とお話しされました。



竹中むかわ町長

2. 情報提供

志田アドバイザーより「判断のための最新気象情報活用術」と題し、情報提供がありました。台風の進路情報や雨雲の動き、警報の危険度分布など、気象庁のホームページで見られる最新の気象情報の見方、活用の仕方、その精度について詳しく解説されました。最後に「防災気象情報を普段から使い慣れておくことが、いざというときの迅速・的確な判断につながる。タイムラインが立ち上がった際にも危機感を共有できる。」とお話しされました。



志田アドバイザー

3. ワークショップ

黒木座長の進行でワークショップが行われました。初めにむかわ町から意思決定のタイミングについて説明があり、続いて事務局からワークショップの進め方の説明を行いました。その後、全参加機関が「意思決定グループ」「インフラ対策部グループ」「住民対策部グループ」の3グループに分かれてグループワークを行いました。第2回検討会の結果をとりまとめたタイムライン素案をもとに、各機関における防災行動の内容の確認や実施タイミング、協働する関係機関との役割分担等についての検討を行いました。検討結果は事務局で整理・修正を行い、次回検討会までに各機関との調整の上で「タイムライン一次案」が作成される予定です。



グループワーク

4. 全体講評・閉会

ワークショップ終了後、検討会全体を通して志田アドバイザー、黒木座長からそれぞれ講評を頂きました。志田アドバイザーは「どんな状況なのかを皆がきちんと想定して検討しているのが良かった。ただ、実際タイムラインを立ち上げた時、すべての情報がうまく流れてくるとことは難しい。指示・連絡を待つのではなく、テレビやインターネットを使って自分たちの必要な情報を得ることが重要。」とお話しされました。黒木座長からは各グループそれぞれに対して、「想定通りにはいかないため臨機応変な対応が必要で、限られた人数で長時間対応する疲労についても考慮が必要。」「通行止めの際に住みだけでなく旅行者や外国人に対しての周知の徹底が大切である。」「避難の周知伝達は実際は想像以上に難しく、また避難所の受入に関しても綿密な計画を立てておくことが重要である。」とお話しされました。



全体講評



黒木座長

最後に、司会から次回検討会は10月を予定していることが伝えられ、第3回検討会は終了となりました。